

# 別府里浜づくり新聞

第3号  
平成16年  
12月21日

## —Dグループの発表内容—

- A, B案について
  - ・整備費が大きいことなどから、A, B案はあまり話しに出なかった。
  - ・ゴミ処理が問題。特にA案は磯に引っかかる。
  - ・B案は、ヘドロの堆積が心配。
  - ・事業費や管理面を考慮しなければ、景観上は一番よいかもしれない。
- C案について
  - ・海に触れられる点が良い。
  - ・磯に溜まるゴミをどうやって掃除するかが問題。
  - ・ゴミはどこかにはあるわけで、ここに無ければいいというのでは根本的な解決にならない。
  - ・人が水面に降りた時の事故対策、責任の所在に課題がある。
- C'案について
  - ・陸地から海を眺めた場合は一番よい。
  - ・デッキはかなり広いのでよい雰囲気をつくって欲しい。
  - ・護岸とヨットハーバーの付け根に砂が溜まるのであれば、C'案でもそこを利用することで、水に触れるという親水性もある程度確保できるのではないか。
  - ・C, C'案ともに、防護面が不安。景観面とも絡むが、護岸をもっと高くした方がよいのではないか。
  - ・防災と景観の折り合いが今後の課題だろう。
- 全体を通じて
  - ・全案の折中案を検討できないか。
  - ・全案とも護岸の高さが不足していないか。防災面からもっと大きなテトラポットを入れてはどうか。
  - ・防災面から沖に別途防波堤を追加する案は、景観上問題があるという意見があるが、これに対して防波堤を小島に見えるようにできないか、もっと言えば島の上に植栽などをすれば景観上の問題は無いのではないか、という意見がある。
  - ・C, C'案を中心に意見を出し合ったが、防災と景観にどのあたりで折り合いをつけるか、これからは時間をかけて議論していきたい。

## —講評/齋藤先生—

- 防護方式と各案について
  - ・防護の方法としては、護岸を高くする。そして波のエネルギーを減衰させるために消波ブロックを置く方法や、砂浜などを設けて面的に沖合から波のエネルギーを減らそうとする方法がある。
  - ・A, B案の巨大な構造は、沖合いから波のエネルギーを減衰するための構造である。
  - ・A, B案は、構造物を50~70m沖合に出すことでC, C'案より護岸天端を低くしている。
  - ・磯場や砂浜をつくって遊んでもらうことが主目的ではなく、どうせならそこで遊んでもらうというのがA, B案の構造である。
  - ・もうひとつの防護方策は、波のあたる堤防から建物を離し、緩衝帯を設けて波の被害を受けない距離を確保する方法である。これはC'案の考えの一つである。
  - ・そして距離を離して空間を確保するならば、そこを散策などができるようにしてもいいという考えである。
- C'案を提案した背景
  - ・行政がつくった空間での事故は、行政が責任を問われることが多く、磯浜を造っても結果的に行動が制限された柵だらけの水辺になる。
  - ・上人ヶ浜に本物があり、人工の磯浜を造って遊ばねばいけないのか。
  - ・無いものを造ることで幸せをつかもうとするのではなく、あるものに磨きをかけていくべき。
  - ・以上の考えから磯浜や砂浜にする案には個人的に賛同できず、C'案を提案した。
  - ・出島といわれる北浜旅館街を、これ以上前出しするのは無理だろう。
  - ・海浜による面的防護を水深の深いところでも行うのではなく、別のやり方があるのではないか。
  - ・こうしたことを考えに入れて、各案の議論を進めていって頂きたいと思う。

## 第2回別府港海岸づくりワークショップ(北浜地区)を開催しました



別府港海岸（北浜地区2）の整備基本計画（案）策定にあたり、市民の皆様に参加して頂き、「第2回別府港海岸づくりワークショップ」を平成16年12月5日（日）午後3時より整備地区の現地見学を含め、北浜のホテル清風で開催しました。

当日は23名の市民の方々にご参加頂き、大分県並びに別府市の職員の方々を含めた32名での開催となり、予定の午後6時過ぎまで熱心な議論が行われました。

## ワークショップの内容

今回は、第1回ワークショップで提示した整備計画4案について、それぞれの整備規模や周辺との関係など、各案の計画内容を実感して頂くために、現地での見学会を行いました。

見学会では、現地にて整備計画4案の護岸規模や、隣接する北浜地区のヨットハーバーの整備計画について事務局から説明を行い、各案の計画内容を確認して頂きました。また、今年の台風23号による被災状況についても確認して頂きました。

見学会に引き続き、場所を北浜のホテル清風に移し、4グループに分かれて、各整備案について討議を行って頂きました。

最後に全体討議を行い、各グループでの検討内容を代表の方に発表して頂き、意見交換を行いました。最後のまとめとして幹事会座長の齋藤先生に講評を頂き、閉会となりました。



現地見学会の様子



グループ討議の様子



討議内容を発表するDグループの小出氏



事務局への質疑応答



講評をする齋藤先生

## お知らせ

第3回のワークショップは1月下旬に開催を予定しております。詳細は後日ご案内致します。

※別府港海岸の整備に関する情報は下記別府港湾・空港整備事務所ホームページに随時掲載していきます。是非ご覧下さい。  
<http://www.beppu-port.go.jp/>

## <第2回別府港海岸づくりワークショップ(北浜地区)会次第>

1. 開会
2. 現地見学
3. グループ討議
  - ・4案の比較検討、整備にあたっての提案・意見
4. 全体討議
  - ・各グループでの発表
  - ・意見交換
5. 閉会

### 現地見学会の内容

現地見学会では、参加者全員で北浜旅館街前のペデストリアンデッキを歩きながら、整備計画案の確認を行って頂きました。

整備計画案4案は、それぞれ海岸整備の規模が異なり、各案が現在の海岸線からどこまで構造物が出来るのか、どこまで埋め立てが必要なのか、海上に設置した20メートル間隔のブイを目安に確認して頂きました。また、海上のブイでは感覚的に距離が把握しづらいことから、陸上にも20メートル間隔でコーンを設置し、整備規模を把握する助けといたしました。

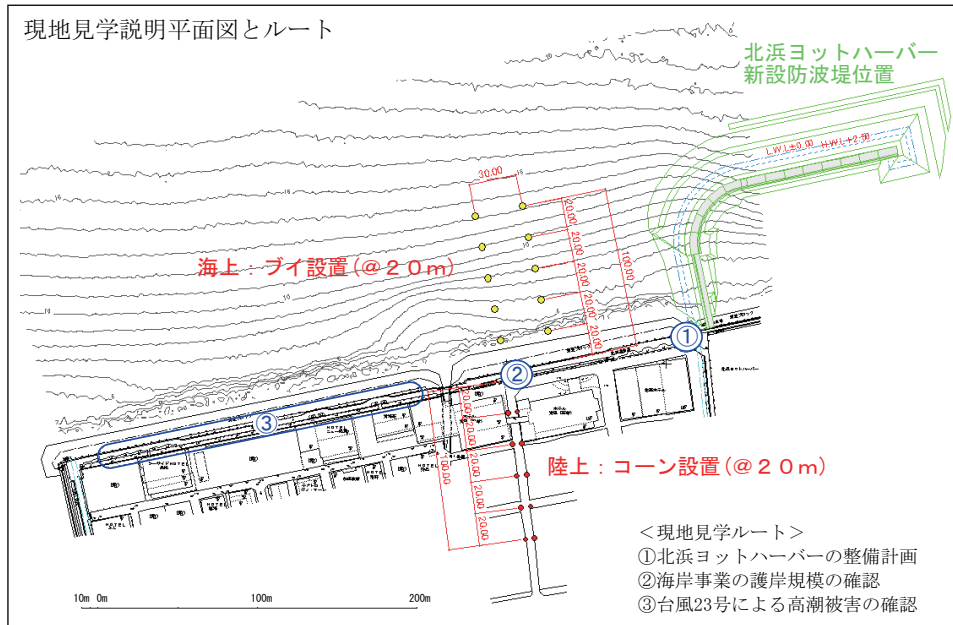
同時に、平成20年の国体のセーリング競技開催地として整備が進められる北浜ヨットハーバーの整備計画、また、今年の台風23号による被災状況も確認して頂きました。



現地見学会の様子



海上に設置したブイ

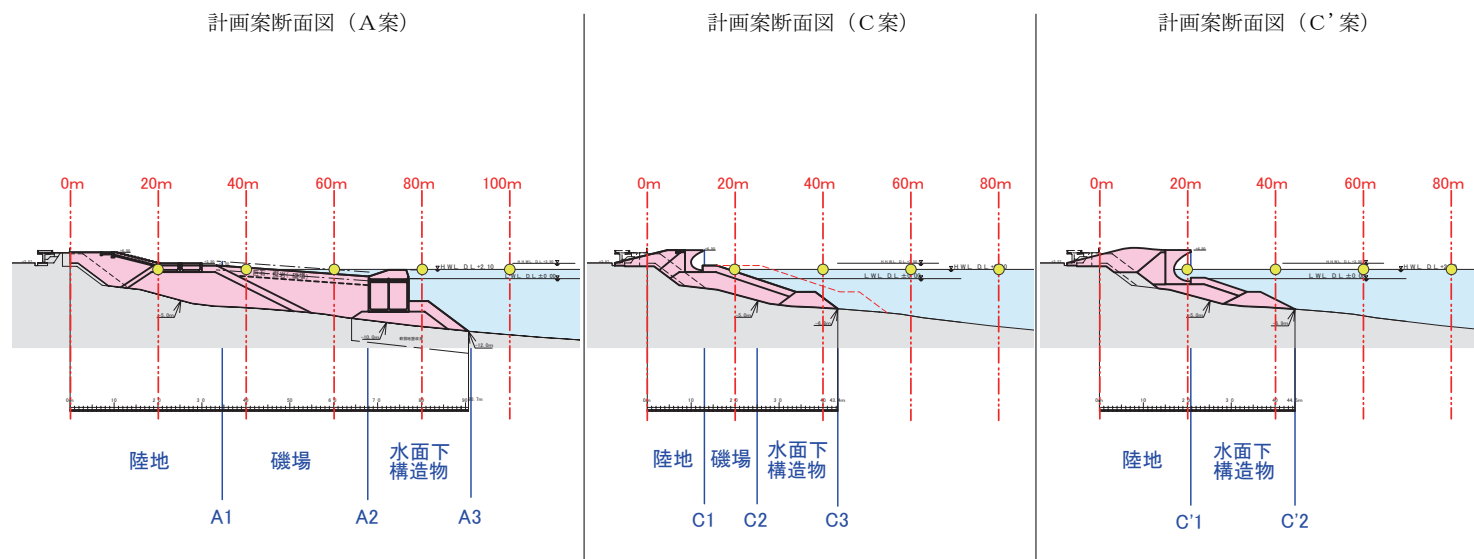
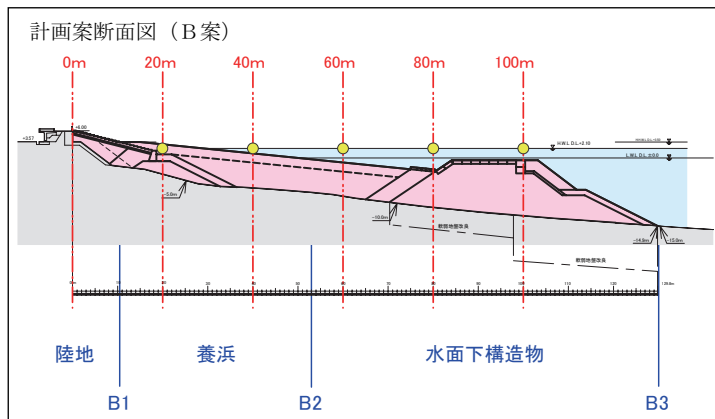


### <図面の見方>

B案を例にとると、20メートル間隔のブイ設置位置が断面図と平面図の黄色のポイントに対応します。整備位置(B1、B2、B3)をブイの位置で確認します。

海岸から約10mのところ(B1)が陸地となります。海岸から10mから23mのところ(B1からB2)が養浜となります。これは干潮時に浜が最大となる時の位置です。海岸から130mのところ(B3)まで水面下に構造物が整備されます。

同様に、A、C、C'案の整備規模は下の断面図のようになります。



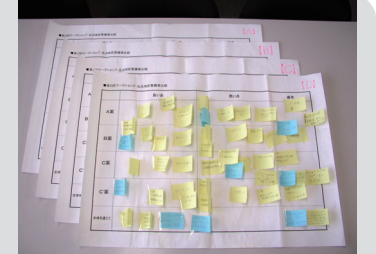
### グループ討議

現地調査の後はホテルに場を移してのグループ討議が行われました。

市民参加者5、6名、行政関係者4、5名の計10名程の人数で構成されたA～Dの4つの各グループでは、各案について参加者が相互に意見を交換し、問題点・課題等について活発な議論が行われました。



各グループ討議の様子：付箋を使って出された意見を整理していく。



### 全体討議

全体討議では菅座長司会のもと、各グループの代表者(市民参加者)がグループ討議で出された意見を発表し、事業全体の計画に関する事なども含めてワークショップの参加者全員で討議が行われました。

まとめとして、齋藤先生から今回のワークショップの講評を頂き、また、菅座長から今回のワークショップには、地域の代表として幹事会委員となって頂いている皆様に参加しており、本日の討議内容は幹事会に報告する旨の言葉で閉会となりました。以下に各グループの発表の内容及び、齋藤先生の講評を紹介します。

#### —Aグループの発表内容—

- A案について
  - ・海にふれて遊ぶ場所があるのがよい。
  - ・ゴミが漂着すると磯に入り込み、収集が困難。
  - ・海底に堆積しているヘドロの処理が課題。
- B案について
  - ・砂浜で遊べるところがよい。
  - ・ここでは松林があるような海岸は無理。
  - ・ちょっと遊べる程度の砂浜だと意味が無い。
  - ・生活排水が流れ込むのでは、砂を入れても遊べない。
  - ・護岸はコンクリートではなく、石などでつくった方がよい。
  - ・沖には漁礁をつくれれば魚も住めるようになる。
- C案について
  - ・海にあまり人工のものを入れず、海の環境に影響が少ない点が良い。
  - ・入り組んだ水際線(磯場)は漂着ゴミが心配。
- C、C'案について
  - ・背後のまちから海面が見えるのがよい。
  - ・歩道が広いのがよい。観光客も海に降りるより歩道を散歩する方がよい。
  - ・デザインによるが、コンクリートでつくと見苦しくなるのではないかな。
- 全体を通じて
  - ・下水道の処理、市民の意識改革が重要。
  - ・海からの眺めも考えなければいけない。

#### —Bグループの発表内容—

- A、B案について
  - ・親水性があるところがよい。
  - ・事業費が高く、ゴミなどの管理が困難。
  - ・旅館組合やボランティアだのみのゴミ処理は難しい。
- C案について
  - ・事業費が安く、景観が良くなる点が良い。
  - ・親水性が少ない。
  - ・まちと水際線までの距離が短く、防護面が不安。
- C'案について
  - ・事業費が安く、防護と緑地活用という複合的な利用ができる。
  - ・緑地の使い次第では交流の場になる。
  - ・防災面での安心感、親水性が少ない。

#### —Cグループの発表内容—

- A、B案について
  - ・砂浜、磯浜は観光資源になるとして、グループの市民参加者6名の内2名が推した。
- C、C'案について
  - ・出来るだけ現状のままだとよいとして、市民参加者6名の内4名が改変の小さいC、C'案を推した。
  - ・スパビーチ、餅ヶ浜に砂浜があるので、北浜は海辺の遊歩道という利用でよい。
  - ・A、B案に比べて安いので、もう少し費用をかけて高質化できないか。
- 全体を通じて
  - ・A、B案がよいのは解るが、漂着ゴミ等の地元負担と経済的な問題がある。
  - ・行政の財政事情からも北浜に多額の投資をするのではなく、他の公共工事等にまわした方がよい。
  - ・河川からの流出物による海辺の汚染を考えて欲しい。



討議内容を発表するAグループの後藤氏



討議内容を発表するBグループの小堀氏



討議内容を発表するCグループの米田氏